

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390800070		
法人名	株式会社ピアーズ		
事業所名	グループホーム吉備路 (1階)		
所在地	岡山県総社市宿903-1		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 11 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390800070-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 8 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍、外出が難しいため、毎日体操で体を動かしたり、天気の良い日は職員共に施設の敷地内を散歩に出て、外の空気に触れるように努めています。吉備路から見渡せる風景は、春は桃の花、夏は新緑、秋は夕焼け、冬は雪景色、目の前にはたんぼがあり四季折々楽しませてくれます。また些細な事や心配事など、電話でご家族に報告したり、毎月ご家族にお手紙と写真で報告させていただいています。話せる人はご家族と直接電話で話しをさせていただいています。また、入居者さんの食べたい物をテイクアウトしたり、季節感のあるメニューを希望食として提供し食べていただいています。毎日サーキュレーターをフルに回して換気をつけています。職員は手指消毒、マスクの上にフェイスシールドを常に使用して感染予防に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・家族・スタッフ[外の家族]の三位一体の関係が上面だけでなく、心から深く絆を繋げている。オムツの経済的負担を自分に置き換えて考えることで、気配り、心配りを持ってみんなが幸せになれるよう繰り返し是正している。酸素吸入の方に入れ歯をすと、自然と食事を摂ることができるようになり、耳が遠くて電話応対できない方にも受話器を耳にあてて相手の声が窺えるようにしたら、笑顔が生まれた。その表情をスタッフは写真に撮り、家族に送ることで、家族に喜びが生まれ、スタッフの励みとなっている。行動や言葉掛けが自然にでて、前向きなオーラを持ち合わせるスタッフがここにいた。家族のようなスタッフの振る舞いによって、入居者が元気になり、延命する現象も起きている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階で7時、10時、16時の申し送りの時に職員全員声に出し理念を読み上げています。	各階の事務所や玄関、トイレの見えるところに理念を掲示し、職員全体に周知を図っている。また、申し送りの後、理念を復唱すると共に、振り返る時間を設けている。薬の置き方やメモ書きにも工夫を凝らし、色や大きさを変えることによって、職員が常にチェックできる環境にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、小地域ケア会議や福祉フェアは行えていない状況です。	コロナ前は、福祉フェアに参加したり、相撲大会を観に行ったりしていた。現在は、地域の草むしりに参加している。その際に、近所の人と会話することで地域交流が途絶えないようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方には、運営推進会議の議事録を2ヶ月に1度送らせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、集まっての会議は難しいため、電話や書面上で記録に残し郵送しています。	コロナにより会議は実施できていない。以前は、自治会長、長寿社会課、家族が参加し、2ヶ月に1回定期開催をしていた。コロナ初期は、「大変な状況でいつも頑張ってくれて、ありがとうございます。」という手紙を頂き、手紙の返事で、地域との交流を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には、わからない事など電話で聞き、協力関係を築くように努めています。	窓口はホーム長が中心となっている。市役所に足を運ぶと必ず声を掛けて頂ける顔馴染みの関係が形成されている。わからないことがあれば、電話をかけると何でも教えて頂ける関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で月に1度、検討会を行っています。玄関ドアの施錠など、不穏になる入居者さんもいる為、やむを得ず行っている場合もあります。	外に出てしまうと危険が生じるため玄関のみ日中施錠をしている。コロナ禍により、身体拘束委員会は実施できていないが、定期的に資料を配布することで、職員には伝達し、実践を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に検討会を行い発進し、資料などを配布して職員全員で防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の勉強会の予定を立て、各委員会から発進して資料を提示しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居されるご家族には、密にならないように1名のみで説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で、運営推進会議は開催できませんが、質問や要望など話しやすい環境を作っています。	家族に定期的に電話をし、近況報告を交えて、意見を聞き取っている。以前はアンケートを行っていたが、直接意見を聞くように変更したことで要望を叶え易くしている。お酒の飲みたい方に、コーラを提供したり、寝たきりの方が電話する様子を写真に撮ったりしたことで、家族の信頼が増している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの時や申し送りノートにて意見交換をしています。また、年2回個人面接を行っています。	年2回自己評価を基に個別面談を行い、全体会議の中で意見を聞き取っている。リーダーやホーム長とは何でも話せる関係が築かれていて、お願いごとや頼み事はしやすい環境が整っている。職員間の連携も取れているので、雑談の中から聞き取ることや、個人的な相談もしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チェックシートを基に年2回面接を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々で判断するのではなく、職員同士で意見交換をし、ホーム長、管理者は、いつでも答えが出せるように連絡を取っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、今は訪問はできていないが、必要な時は電話でやり取りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に意見を聞かせていただき、ご本人と対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の何気ない言葉に耳を傾け信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	間隔を開け、入居者同士がスムーズに会話ができるよう間に入り良い関係ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に職員同士話し合い、やり取りを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事や少しの変化でも、ご家族に連絡を取り状態報告をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が持たれている携帯電話やホームの電話などで、ご家族とやり取りを行っています。	入居者同士の仲が良い反面、ケンカすることも時々あるが、職員は、近所の人と同じように扱いたいという精神の基、出来るだけ見守りに徹している。近隣のマラソン大会が中止された時、テレビ中継のマラソンを観て、旗を振って応援することで、コロナ禍を感じさせない工夫もみられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業を行う時などは職員が間に入り関係作りをサポートしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族に手紙を書いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを受け止め、コミュニケーションを行い、その方のペースに合わせた介護を行っています。	日常での言葉掛けを大切にしている、思いを汲み取っている。困難な場合は家族に聞き、利用者の表情や何気なく発する単語からも把握するようにしている。話せない方は、目で合図したり、手を触ったりしてコミュニケーションを図ることで、意見が伝えやすいように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅で使っていた物などを持ってきていただき、少しでも今までの生活環境に近づけるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合ったケアがきちんとできているかどうか、職員で話し合い、申し送りで把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは電話でのコミュニケーションを図り、その後のモニタリングを3ヶ月に1度行い、担当者に協力してもらいプランを作成しています。	ケアマネを中心に、入所時、3か月後、6か月後毎に介護計画を作成している。何かあればその都度見直し、モニタリングは3か月毎に実施して、様子を見ながら活かしている。独自の伝達シートを作成し、介護計画に役立てている。担当者制を敷いて、個人に手厚い介護をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事も個人記録に残し、伝達シートなどを活用し実践し、役立てるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人その方に対し、職員で話し合い、意見交換ができるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に1度、百才体操を行い、体を動かしたり支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日中、夜間をとわず、何かあれば24時間体制で協力医と連携を取りながら、入居者家族の意見を尊重して対応できるようにしています。	かかりつけ医を変更するかどうかは、入居時に確認している。往診日でなくても、電話一本で駆けつけてくれる協力体制が築かれている。リーダーが看護師の資格を持っているので、丁寧な対応ができています。他科へは、家族の方が予約を取り、連れて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護と意見交換を行い、入居者に反映できるように支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族、主治医に電話し連絡を取り合い状態を把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にアンケートを記入していただき、また家族の意見を聞き、家族、職員共に主治医と話し合っています。また看取りケアを行っています。	看取り経験のある職員が多いので、安心して任せることができる。重度化した場合は、リーダー、ドクター、家族と話し合いを行うことで全員が納得できる形になっている。また、家族に対しては、常に冷静にいられるように、職員は慌てずに落ち着いて行動し、家族へのフォローも忘れないようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1階、2階の職員同士連携を取り、資料を作成し見てもらったり、コロナ禍の緊急シミュレーションも行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っています。災害時の避難場所の確認も職員同士共有しています。	年2回、昼夜設定で実施。コロナ禍なので、2階への避難や、近所を歩くことで避難経路の確認を行った。電話連絡のマニュアルは事務所に掲示している。備蓄は3日分準備していて、期限が迫ってきたものは、カップラーメン祭りと呼び、みんなで美味しく頂いている。	連絡網の充実(SNSの活用)を図ってみたいはいかがでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重した声かけや対応を行っています。できる事は自分で行ってもらっています。	呼称は、苗字にさん付けでお呼びしている。トイレや居室のドアを閉めることや大きな声を出さないことで、利用者のプライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行っている。居室の表札や掲示板への表記をする際にも、家族の同意を得て了解して頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の希望を聞き入れ、本人のしたい事ができるように見守りを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の身だしなみなど、その方のペースに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類もご本人に選んでいただいたり、整髪も自分でしていただいたり、できない方は、お手伝いをさせていただいています。ご家族に連絡し衣替えの物をもって来ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの食べたい物や好みを聞き、メニューに取り入れたり、ご家族に持ってきていただいたり、購入し提供しています。	主食はケイタリングだが、副食は手作りをし、味付けはその人に合わせている。食欲がない方に、おにぎりやおじやを作ったら、喜んで食べてもらえたことがあった。また、ムース食の方に、お弁当のテイクアウトをしたところ、美味しいと言って残さず食べたことがあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をこまめに摂れるようトロミをつけたり、食べやすい大きさなどに気を配りながら支援しています。水分チェックを行っている方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った歯ブラシを使い口腔ケアを行っています。歯科衛生士さんに勉強会を行ってもらい指導していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おしめ交換を行ったり、定期的に声かけを行いトイレ誘導を行っています。本人ができる時は、そっと見守りを行っています。	日中は、トイレ誘導を行う。排泄チェックシートを活用し、利用者の排泄パターンを把握し、支援している。ポータブルトイレを使用していた方がトイレを使えるようになった事例もある。オムツは経済的にも費用がかかるので、職員は家族の気持ちになってコスト削減を常に考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い体を動かしたり、こまめに水分補給ができるように声かけを行いながら摂取していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています。その方の体調や気分により、日にちを変更したり、足浴や清拭を行っています。	入浴は週2回で、希望される方へは週3回の入浴も可能である。浴槽に浸からない方にも、入浴を喜んで頂けるように、シャワー浴の時に足浴を同時に行っている。嫌がる方には、「ちょっといいところへ行こう。」「足を温めにいこう。」と言葉掛けをし、入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や湿度、明かりなどに気をつけながら、眠れない時など寄り添い話を聞きながら入眠を促すようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルをすぐに見れるようにしています。服薬時、服薬後は必ず確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おこづかいで食べたい物を購入したり、洗濯物をたたんだり、レクリエーションを行ったり、気分転換を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、なかなか外出は難しい状況ですが天気の良い日はベランダから外の空気や風景を眺めたり、施設の敷地内を職員共に散歩したりしています。	コロナ前は、家族とのドライブや家に帰って食事をしてきたが、現在は、ゴミ出しやベランダでの日向ぼっこをして過ごしている。施設内に神社を作り、おみくじや賽銭をして手を合わせることで、あたたかも外出した気分を味わえるように工夫を凝らしているが、以前よりも外出ができない状態の方が増えてきた。	日常の外出支援になるように工夫をし、フラストレーションの解消をしてみたいかがでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、おこづかいとして預かり、金庫で保管しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は、ご家族に電話をかけたたり、毎日ご家族から同じ時間帯にかけてくださったり、定期的に施設側からご家族に電話し会話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に換気を行い、エアコンを使い室内の温度調節やホール、廊下、トイレなどの明かりやテレビなどの音量にも気を付けています。	国分寺を模倣したステンドグラスから差し込む光によって、その日の気候を感じ取ることができる。壁には、大きいクジラや富士山の貼り絵が飾られていて、寛大な気持ちでリビングで過ごす利用者の姿が窺えた。晴れた日には、ベランダに出て自分の住んでいた町の風景を窓の外を眺めながら物思いにふけていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子やリクライニング椅子を置いたり、少し離れた場所でも過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物や家具など馴染みの物を持参してもらっています。	壁には孫の結婚式の写真を飾ったり、使い慣れた化粧水を使用したりして、自分の慣れ親しんだ空間を楽しんでいる。ソファに座って、窓の外の緑一面の風景を眺めて過ごす利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者に対しては、センサーマットを敷いて安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんのタンスの上のテレビや室内外の物が落ちないように固定したり、身の回りの物が分かり自分で出し入れできるように配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390800070		
法人名	株式会社ピアーズ		
事業所名	グループホーム吉備路 (2階)		
所在地	岡山県総社市宿903-1		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 11 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3390800070-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 8 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で家族に会えない事もありますが、毎月の手紙や施設でのすごされている状況を写真で送らせていただいています。天気の良い日はスタッフ一人入居者一人で施設内を少し散歩するようにしています。入居者の希望を聞き季節のメニューを出すこともあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・家族・スタッフ[外の家族]の三位一体の関係が上面だけでなく、心から深く絆を繋げている。オムツの経済的負担を自分に置き換えて考えることで、気配り、心配りを持ってみんなが幸せになれるよう繰り返し是正している。酸素吸入の方に入れ歯をすと、自然と食事を摂ることができるようになり、耳が遠くて電話応対できない方にも受話器を耳にあてて相手の声が窺えるようにしたら、笑顔が生まれた。その表情をスタッフは写真に撮り、家族に送ることで、家族に喜びが生まれ、スタッフの励みとなっている。行動や言葉掛けが自然にでて、前向きなオーラを持ち合わせるスタッフがここにいた。家族のようなスタッフの振る舞いによって、入居者が元気になり、延命する現象も起きている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階で、7時10時16時で申し送りを行っています。	各階の事務所や玄関、トイレの見えるところに理念を掲示し、職員全体に周知を図っている。また、申し送りの後、理念を復唱すると共に、振り返る時間を設けている。薬の置き方やメモ書きにも工夫を凝らし、色や大きさを変えることによって、職員が常にチェックできる環境にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流会はコロナ禍のため参加できていませんが情報は共有できるようにしています。	コロナ前は、福祉フェアに参加したり、相撲大会を観に行ったりしていた。現在は、地域の草むしりに参加している。その際に、近所の人と会話することで地域交流が途絶えないようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度運営推進会議の資料を送っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度入居者の家族や地域の方に資料を送らせていただいております。	コロナにより会議は実施できていない。以前は、自治会長、長寿社会課、家族が参加し、2ヶ月に1回定期開催をしていた。コロナ初期は、「大変な状況でいつも頑張ってくれて、ありがとうございます。」という手紙を頂き、手紙の返事で、地域との交流を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にはわからないことなど聞き協力を築くよう努めています。	窓口はホーム長が中心となっている。市役所に足を運ぶと必ず声を掛けて頂ける顔馴染みの関係が形成されている。わからないことがあれば、電話をかけると何でも教えて頂ける関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠などは不穏になる入居者もいるためやむおえず行っている場合もあります。	外に出てしまうと危険が生じるため玄関のみ日中施錠をしている。コロナ禍により、身体拘束委員会は実施できていないが、定期的に資料を配布することで、職員には伝達し、実践を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会からの勉強も現在では資料を配布して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の勉強会の予定を立て各委員会で書面で発表しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	密にならないように入居される家族には1名のみで説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はコロナ禍で開催できませんが質問要望など話しやすい環境をつくっています。	家族に定期的に電話をし、近況報告を交えて、意見を聞き取っている。以前はアンケートを行っていたが、直接意見を聞くように変更したことで要望を叶え易くしている。お酒の飲みたい方に、コーラを提供したり、寝たきりの方が電話する様子を写真に撮ったりしたことで、家族の信頼が増している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面接を行っています。	年2回自己評価を基に個別面談を行い、全体会議の中で意見を聞き取っている。リーダーやホーム長とは何でも話せる関係が築かれていて、お願いごとや頼み事はしやすい環境が整っている。職員間の連携も取れているので、雑談の中から聞き取ることや、個人的な相談もしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チェックシートを基に年2回面接を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に判断するのではなくスタッフ同士で意見交換をしホーム長管理者はいつでも答えが出せるように連絡をとっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ交流会では意見交換はできていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍でご本人に会えても、短時間での面接となりますが家族などにより話しを聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の何気ない言葉に耳を傾け信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナ禍で、間隔を開けての会話になりますが間に入り会話ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍で入居者が家庭にいた環境に少しでも近づけるようつとめています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでも耳を傾けて本人を支えていく関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にもtelや手紙などで良い関係を作っています。	入居者同士の仲が良い反面、ケンカすることも時々あるが、職員は、近所の人と同じように扱いたいという精神の基、出来るだけ見守りに徹している。近隣のマラソン大会が中止された時、テレビ中継のマラソンを観て、旗を振って応援することで、コロナ禍を感じさせない工夫もみられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	密にならないようにスタッフが間に入り関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後 家族に手紙を書いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	密にならないように個人の気持ちを受け止めそ の方のペースに合わせた介護を行っています。	日常での言葉掛けを大切にしている、思いを汲み 取っている。困難な場合は家族に聞き、利用者の 表情や何気なく発する単語からも把握するよう にしている。話せない方は、目で合図したり、手 触ったりしてコミュニケーションを図ることで、意見 が伝えやすいように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅で使っていたものや 今までの生 活環境に近づけるようつとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	一人一人に合ったスタッフ同士で話し合い申し 送りでも把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	家族との電話でのコミュニケーションをを図りそ の後モニタリングを3か月に1度行い担当者に 協力してもらいプランを作成しています	ケアマネを中心に、入所時、3か月後、6か月後毎 に介護計画を作成している。何かあればその都度 見直し、モニタリングは3か月毎に実施して、様子 を見ながら活かしている。独自の伝達シートを作 成し、介護計画に役立てている。担当者制を敷い て、個人に手厚い介護をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	記録を書き 伝達シートを使い情報を共有して います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応 して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援や サービスの多機能化に取り組んでいる	優先順位をつけてん内容が何なのか臨機応変 に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域で行われている行事は参加できていますが、総社市民だよりなどを読み地域のことを把握しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで担当していた主治医や協力病院にお願いしています。	かかりつけ医を変更するかどうかは、入居時に確認している。往診日でなくても、電話一本で駆けつけてくれる協力体制が築かれている。リーダーが看護師の資格を持っているので、丁寧な対応ができています。他科へは、家族の方が予約を取り、連れて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名で連絡を取り合い緊急時にも対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍でお見舞いには行けませんが、担当看護師に電話で状態を聞き把握できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と密に連絡を取り看取りケアを行っています。その際主治医ともよく話をしています。	看取り経験のある職員が多いので、安心して任せることができる。重度化した場合は、リーダー、ドクター、家族と話し合いを行うことで全員が納得できる形になっている。また、家族に対しては、常に冷静にいられるように、職員は慌てずに落ち着いて行動し、家族へのフォローも忘れないようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で緊急時対応は感染した時のシュミレーションを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っています。災害時の避難場所の確認も、スタッフ同士共有しています。	年2回、昼夜設定で実施。コロナ禍なので、2階への避難や、近所を歩くことで避難経路の確認を行った。電話連絡のマニュアルは事務所に掲示している。備蓄は3日分準備していて、期限が迫ってきたものは、カップラーメン祭りと呼び、みんなで美味しく頂いている。	連絡網の充実(SNSの活用)を図ってみてはいかがでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを守り出来ることは、尊重しさりげない言葉がけを行っています。	呼称は、苗字にさん付けでお呼びしている。トイレや居室のドアを閉めることや大きな声を出さないことで、利用者のプライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行っている。居室の表札や掲示板への表記をする際にも、家族の同意を得て了解して頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の訴えに耳を傾けて、できることは自己決定出来るよう言葉がけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に沿ったケアをスタッフ同士話し合いを行い良いケアが出来るように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の整理整頓や季節の衣替えなど家族に連絡をしています。散髪もコロナ禍で中止していましたが再開しました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で配膳などの準備はできませんが一人一人の好みを聞きメニューに取り入れるようにしています。	主食はケイタリングだが、副食は手作りをし、味付けはその人に合わせている。食欲がない方にも、おにぎりやおじやを作ったら、喜んで食べてもらえたことがあった。また、ムース食の方に、お弁当のテイクアウトをしたところ、美味しいと言って残さず食べたことがあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人その人に合う食べやすさや硬さなど考えて食べていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアもその人に合うブラシなど使い行っています。歯科衛生士さんに診てもらい食後の指導を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートを見ながら定期的トイレ誘導を行っています。	日中は、トイレ誘導を行う。排泄チェックシートを活用し、利用者の排泄パターンを把握し、支援している。ポータブルトイレを使用していた方がトイレをえるようになった事例もある。オムツは経済的にも費用がかかるので、職員は家族の気持ちになってコスト削減を常に考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の工夫や体操などを行い腸内運動も行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は行っています。気分が乗らない日は日を改めて声掛けを行っています。足浴を行って清潔保持を行っています。	入浴は週2回で、希望される方へは週3回の入浴も可能である。浴槽に浸からない方にも、入浴を喜んで頂けるように、シャワー浴の時に足浴を同時に行っている。嫌がる方には、「ちょっといいところへ行こう。」「足を温めにいこう。」と言葉掛けをし、入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分が落ち着かないときは話をしたりホールのベッドで休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帖 お薬の説明はファイルを作っています。看護師が薬を分け内服確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	間隔を開けて1人1人気分転換のため、レクリエーションやラジオ体操、百歳体操などを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周りを天気の良い日は、スタッフ1人入居者1人で散歩を行っています。	コロナ前は、家族とのドライブや家に帰って食事をしていたが、現在は、ゴミ出しやベランダでの日向ぼっこをして過ごしている。施設内に神社を作り、おみくじや賽銭をして手を合わせることで、あたたかも外出した気分を味わえるように工夫を凝らしているが、以前よりも外出ができない状態の方が増えてきた。	日常の外出支援になるように工夫をし、フラストレーションの解消をしてみたいかがでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かり残高とレシートを家族に送っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方もいます。月に一度手紙を送らせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により、入居者の作られた作品などを展示しています。	国分寺を模倣したステンドグラスから差し込む光によって、その日の気候を感じ取ることができる。壁には、大きいクジラや富士山の貼り絵が飾られていて、寛大な気持ちでリビングで過ごす利用者の姿が窺えた。晴れた日には、ベランダに出て自分の住んでいた町の風景を窓の外を眺めながら物思いにふけていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも横になれるようにベッドを置いたり椅子も用意させていただきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前家庭で使っていた家具など部屋に置き家になような雰囲気づくりにつとめています。	壁には孫の結婚式の写真を飾ったり、使い慣れた化粧水を使用したりして、自分の慣れ親しんだ空間を楽しんでいる。ソファに座って、窓の外の緑一面の風景を眺めて過ごす利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者に対しては、センサーマットを敷いて安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人少しでもできることは残し全介助にならないように努めています。		